



ほんなこてゆたたり



文責 校長 平井 敏博

令和4年度教育目標 目指すは、“とことん学び続け、とことん学び合う人”

得体の知れない“不安な気持ち”

～保護者の皆さん、子どもの頃、どうでしたか？～

初めて、自分で学校に登校する時、保護者の皆様は、どんな気持ちでしたか。小学校以前に、幼稚園・保育園への初めての登園の記憶として、残っている方もいらっしゃるかもしれません。

私事で申し訳ございませんが、自分の場合、初めての“幼稚園への登園の記憶”として残っています。50数年も前のことなので、園のバスなどはなく、みんなで、先生といっしょに歩いて登園しておりました。家からちょっと大きな道に出るまで、田んぼの中のあぜ道を通ります。泣き叫んでいる自分が、そのあぜ道を、先生に引きずられて連れていかれる(?)映像が、頭に浮かびます。幼稚園や学校は、自分の家とは違う、ちょっと緊張する場所だと感じていたようです。今となっては、“緊張する場所”という表現をしますが、当時は、“家と違う、どんなところか予想もできない不安な場所・恐ろしい場所”だったのかもしれません。

場所であったり、人であったり、出来事だったり、得体の知れない“不安な気持ち”を引き出すものがあります。

この歳になっても、ひょっこりと“不安な気持ち”が顔を出すことがあります。しっかりと向かい合うように心がけておりますが、なかなか手強いこともあります。

子ども達の中にも、得体の知れない“不安な気持ち”を感じている人がいると思います。学校生活では、まったく感じさせない人でも、“不安な気持ち”に悩んでいたことが、後からわかる場合もあります。

“不安な気持ち”と、どう付き合っていくかは、子ども達だけの課題ではないようです。誰でも、生涯を通して向き合う課題だとも言えます。

“不安”との、よりよい付き合い方があると考えています。それは、小学校時代から話題にしておくべきなのではないかと、最近、強く感じるようになりました。何らかの、自分なりの表現方法を持つというのも、大事だと思われま。誰かに話す、文章として書く、絵に表す等々様々な表現方法が考えられます。



貴重で、かけがえのない体験に溢れた学校生活

～本気の学び & 学力向上につなげる模索～

学校で、今、体験していることは、間違いなく、すべて“貴重で、かけがえのない体験”です。多良小学校で、当たり前のように思ってしまう体験も、時間が経てば、いかに貴重だったかを実感します。ふるさと太良町を離れば、なおさらでしょう。



【スケッチ会】



【稲刈り】



【人権集会】

特別な教育活動だけではありません。ごくごく日常の学校生活の中にも、たくさんの貴重でかけがえのない体験の機会があります。

学校のどこかで、友達とのトラブル等も起こっています。自分たちで解決する場合もたくさんあるでしょうし、私たち教職員が、仲介に入る場合もあります。保護者の皆様にも、お力を借りることもあります。小学生時代のそんなトラブルも、すべて、貴重な体験としたいと思っています。貴重な学びの機会です。

後から実感するだけでなく、まさに“今”、少しでも、この貴重でかけがえのない体験を、子ども達自身が、実感できないかと考えています。すべては、自分の成長や伸び、変容のつながる機会です。つまり、学びの機会なのです。学びの機会として捉えて、確実に自分の成長、伸び、変容につながったと分かれば、その貴重さ、かけがえのなさを実感できるのではないのでしょうか。根気強さも引き出せます。

先生方に、指導者側の指示・説明を短くして、子ども達の活動時間をできるだけたくさん確保して下さいとお願いしています。話す時間が長くなると、聞き流すことが身に付いてしまう場合もあります。静かに聞いているように見えても、本気で感じ取っているか、考えているかは、分かりにくいです。必要な指示・説明を短くして、活動する時間を増やすことで、態度・行動として、学びもはっきり見えやすくなります。個別の指導・支援も入りやすくなります。教職員の支援を必要とする場合は、しっかりと意思表示することも育てたいと考えています。

学力・学習状況調査の結果が公表される時、新聞紙上でも学力がとり上げられます。学力向上が重要なことは、言うまでもありません。日常の教育活動と学力向上は、同じ軌道になればなりません。そのようなことを含めて、本気の学びを日常化する模索をしています。